

奈良を発信源として、多くの方に仏教を身近に感じていただくきっかけを作りたいと考え、宗派を超えた僧侶による法話会『H1法話グランプリ』を開催しました。

今後も『H1法話グランプリ』を軌道にのせるため、熱意を持って挑戦し続けます。

浄土宗 安養山 阿弥陀寺
住職

もり
森

けい すけ
圭 介 師



2024年8月30日、阿弥陀寺本堂にてインタビュー

▶一度は他の道を目指すも行きついた先は阿弥陀寺でした

— 阿弥陀寺の住職に就かれた経緯を教えてください。

私にとって幼少期からお寺の行事は身近なものでした。小学校に上がる頃には、当時住職をしていた祖父に連れられてお盆のお参りや、大きな法要には着物を着て参列するなど、檀家さんからは「こぼんちゃん」と呼ばれ可愛がられていました。父親は高校の教師で私は一人っ子でしたので、幼いながらお寺を継ぐのかなと考えていましたが、家族からお寺を継ぐことを前提で話をされたことはありませんでした。そんな中、親から中学受験を勧められ、最初は深く考えず勉強に取り組んでいましたが、負けず嫌いの性格もあって、遊びたいけれど、目標の学校にいけないのは悔しいという気持ちで頑張り、その結果、私立中学に合格し

勉強にも自分にも自信ができました。

宗派によって様々でしょうが、僧侶になろうと思うと仏教系の高校・大学で専用のカリキュラムを受けて卒業することが一番の近道です。でも私は、自分の希望する学校へ進学したいと思い、僧侶の道を選びませんでした。大学へ進学が決まった時、親から「お前がこの寺を継ぐかどうかは最終的に自分で決めたらいい。でも僧侶の資格だけは今のうちにとっておきなさい」と初めてお寺を継ぐ可能性の話をされ、在学中の夏休み、冬休みを利用して浄土宗教師資格を取りました。

大学卒業後はマスコミ業界を目指しましたが、就職氷河期と重なり上手くいかず、イギリスへの留学を経て再挑戦したものの、希望は叶いませんでした。そんな折、大手商社に勤めていた高校時代の友人に誘われて、彼の父親と3人でゴルフ場に向かう車中、友人親子が経済について議論する

のを聞き「話に全くついていけない。自分が恥ずかしい」と感じました。それをきっかけに、留学経験を活かし、国際社会を知るために米国の公認会計士を目指そうと考えました。ただ、勉強するだけでは収入もなく、恰好がつかないと思い、当時祖父も高齢になっていましたので、私がお寺を手伝うことになり、それが阿弥陀寺に入ったきっかけです。そこから、副住職を経て、現在、第31世住職を務めさせていただいています。



▶若手住職の法話の修練の場、宗派を超えて多くの人が仏教に触れてもらう機会を作りたい

—「H1法話グランプリ」とはどのような大会なのか教えてください。

「H1法話グランプリ」は宗派を超えた僧侶たちが法話を披露し合い、その話を聴いて「もう一度会いたいお坊さん」を来場者らの投票で選んでいただくというイベントです。法話グランプリを開催した目的は二つあり、ひとつは若手住職に法話の修練をする場として、法話を披露する機会をつくること。もうひとつは、多くの人に仏教に触れてもらうきっかけを作ることです。

「H1法話グランプリ」は元々、栃木県の真言宗豊山派仏教青年会で立ち上げたイベントでした。それを超宗派でやろうと呼びかけたのが須磨寺の小池陽人さんでした。小池さんとは、以前「未来の住職塾」という宗派を問わず参加できる、お寺のマネジメントを考える研修会で出会いました。同じ宗派の中でのつながりは多くありますが、逆

に他の宗派の方と関わる機会はほとんどありませんので、一緒に受講した方の話を聞くのはとても新鮮で、刺激を受けたのを覚えています。

私も含め、彼の呼びかけで集まった約15名が初期メンバーとなって「H1法話グランプリ」をスタートさせました。

▶試験的に行った「H1法話グランプリ～エピソードZERO～」が大成功を収め、奈良開催が実現

—法話グランプリ～エピソードZERO～とは。

メンバーで集まってみたものの、何から手をつければいいのか誰もわからない状況で、これは一度、実験的なプレ大会をする必要があると開催したのが「エピソードZERO」です。実際にやってみると大会の場所決め、登壇者探し、審査員の先生へのオファー、告知、資金集めなどやることがあり過ぎて本当に大変でした。法話というのはすべからず尊いものであり、優劣をつけるものではありませんので、立ち上げ当初の「もう一度会いたいお坊さん」を決めてもらうというコンセプトを引き継ぎ、それぞれの宗派で「ぜひ登壇いただきたい！」という方に直接オファーさせていただきました。宗派を超えるという点で、やはり審査員が非常に大切だという話になり、宗教学者で相愛大学長でもある釈徹宗先生にお願いしました。あるインタビューで釈先生は「若手がこのようなことをやろうとしている中で、批判も多くあるだろうけど、その風よけになる年齢に僕もなったんだなと思って引き受けさせてもらいました」とコメントしていただいたと聞き、感激しました。そして、法話グランプリ当日は、登壇者が何を話すか分からない、聴く側も宗派の違う法話を聴くことが初めてなので、「もう一度会いたいお坊さん」と言われても何を基準に評価すればいいのかわからないといった状態の中で、釈先生が審査員のコメントとして、足りないところを全部補ってくださいました。おかげで「H1法話グランプリ～エピソードZERO～」は大成功を収めました。宗



派を超えた法話会なんて今までなかったですし、聴衆の熱意もすごくて大きな可能性を感じた瞬間でした。チケットが2日で完売してしまい、急遽YouTube 配信も行いましたが「動画見たよ、面白かったよ」と多くの声が寄せられました。

エピソード ZERO を終えた帰りの電車で、「これ奈良でやりたいんだよね」という話を今の実行委員長にしたことをはっきり覚えています。すると、数日後に「なら 100 年会館」で働いている友人から「法話グランプリ見たよ！ めっちゃめっちゃ良かった。ウチでやらないか」と連絡が来ました。こうして、2021 年、2023 年に「なら 100 年会館」での開催が現実となったのです。

— 奈良で開催したいと考えたのは何か決め手があったのでしょうか。

奈良は日本の始まりの地であり、仏教発祥の地です。歴史的建造物や仏像などが多く残る奈良が仏教の発信源としての役割を併せ持つことができれば、伝統的なものの輝きが一層増すのではないかと考えました。過去～現在～未来を駆けて、奈良が日本の仏教の聖地のようになれば、奈良の価値向上にも資するのではないのでしょうか。特に観光客の方は色々な価値観で奈良に来られていると思います。歴史ある物を見る観光の仕方もありますが、日本仏教の教えや考え方を聞きたい方、文化や歴史に触れたい方もいらっしゃるでしょう。日本、世界を問わず『仏教＝奈良』と認識していただけるようになればいいなと考えています。

— 森住職には「なら 100 年会館」で開催することに大きな意味があるようですね。

奈良の人間にとって「なら 100 年会館」は多くのアーティストやバンドがコンサートやライブを

行う、いわゆる奈良カルチャーの聖地です。そんな場所で仏教のイベントが開催できると思うと大いに興奮しました。やるからには本格的にカッコイイ舞台を用意するのが私たちの役目だと思い、できたらいいなで留まらず、とにかくチャレンジしてみようと準備を進めました。

勝手な思いですが、私の息子がこのイベントを見て「お坊さんカッコイイやん」と言ってくれたら大成功だと考えました。今、なりたい職業と聞かれてお坊さんと答える子供は何人いるでしょうか。私自身もお寺の子供に生まれて、「坊主」とからかわれ、悔しい想いをしたこともあります。そうした中で、お坊さんにスポットライトが当たる場所をつくりたいということが根底にあります。息子だけでなく、法話グランプリを観た一人でも多くの方が、憧れや親しみを感じてもらえたら嬉しいです。



なら 100 年会館の前で挨拶をする森住職

— 法話グランプリを開催する中で苦労されたことはありますか。

2021 年の時は、実行委員の副委員長をさせていただきましたが、宗派を超えたイベントですので、関係各所への許可取りや開催の準備など、大変なことがたくさんありました。『法話』とは仏さまの教えのお話であるということがまず大前提です。

お坊さんがいくら良い話をしたところで、お経に書いていない事や、仏さまが仰った事でなければ、それは法話ではありません。ただし、その捉え方は宗派によっても違いますので、判り易い例え話にすることも必要でしょう。また、法話をす

るには人を引きつけるものが必要ですし、エモーショナルなところに訴えかけることなど、話の中で全てが組み合わせあって、やっと法話と呼べるものになるのではないかと考えています。

開催にあたって、オープニングステージをどうするか非常に悩みました。法話グランプリの根幹は仏教ですので、法話をする前にはお経があるべきです。お経は何に向かって唱えるかが大事で、須磨寺で開催した「エピソード ZERO」の時は、仏像があったからそれでよかったのですが「なら100年会館」には仏像がありません。そこで、書道パフォーマンスで仏さまの名号「釈迦如来」を書いてもらい、それを本尊として機能させようと考えました。これで、本尊問題もオープニングアクトも両方解決できると思ったのですが、ちょうど文化祭や期末試験でどこの高校も忙しく、いい返事をもらえませんでした。どうしようかと困っていた時に、阿弥陀寺には子供たちのための学習施設「ならまち寺子屋学房」があるのですが、ここに通っている中学生がアートパフォーマンス部で、絵画と書道をやっていることがわかりました。顧問の先生にお願いしたところ「コロナ禍で1度も披露の場を設けることができず、生徒も悔しい想いをしてきたので、是非協力させてください」と喜んで引き受けていただけました。

私が始めた「ならまち寺子屋学房」が偶然にも子供たちと法話グランプリの縁を繋いでくれました。当日、迫力のある太鼓の音と共に私の作曲した音楽に合わせて披露してくれたパフォーマンス



オープニングでお経を唱える参加者

はとても素晴らしいものでした。寺子屋も法話グランプリもやってよかったと心から思いました。

もうひとつ、2021年の本大会から、法話グランプリに企業協賛を募ることにしていたのですが、どうすればいいのか悩みました。私は、奈良経済産業協会の青年部会に入らせていただいているのですが、そこでいつも刺激をもらっている同年代の経営者の方達が、快く協力してくださいました。宗教離れと言われている現代で、一般社会や企業に身を置いている方も、宗教の大切さを感じてくれているのだと自信になりました。



—— 法話グランプリ 2023 で実行委員長をされた時に、新たな試みを行われたそうですね。

2023年に実行委員長になり、法話というお坊さんの本道で勝負をしている法話グランプリを、もっとメジャーにして、軌道に乗せたいと思いました。その中でより多くの方に聞いていただくには何ができるのかと考え、YouTube配信に加えて、耳の不自由な方だけでなく、難しい仏教用語に抵抗を感じる方にも、身近に法話を聴いていただけるようAI（人工知能）を活用して、僧侶が話す法話を字幕化することに挑戦しました。テストを重ねた結果、多少の誤変換は出てしまうものの、前後の文脈で正しい意味を類推できるのではないかとこのところまでこぎつけ、2023年大会で実験的に使うことが決まりました。「仏教用語が難しい」と法話を敬遠する人たちにも、字幕があれば、動画サイトのような感覚で見てもらえるのではないかと、また字幕化が可能になれば翻訳



機能と合わせて世界中の方に法話を聴いてもらえる日もそう遠くないのではないかと期待しています。今回の挑戦が仏教全体の未来に繋がればこんなに嬉しいことはありません。

— 2023年の「H1法話グランプリ」を終えて、感じたことはありますか。

実行委員長という大役を果たし、ホッとした気持ちです。大会ごとに委員長が変わる決まりはないのですが、やはり宗派を超えたイベントなので様々な宗派の方に委員長を務めていただくのがいいと思っています。もちろん実行委員には変わりありませんので、引き続き色々な事に挑戦していくつもりです。今回の法話グランプリを終えて、私は「自分のお寺の運営」という身近な範囲の活動と「H1法話グランプリ」という宗派を飛び越えた仏教界全体の特殊で稀有な活動に力を注ぎ「宗派や地域の寺院」の活動に時間を費やすことができていなかったと感じました。今後は、同じ宗派や地域の寺院との繋がりをより深めることが必要だと考えています。

▶ 浄土宗開宗 850 年をきっかけに、同宗派のお寺で協力し、地域を盛り上げていきたい

— これから挑戦しようとしてされていることは何ですか。

これから先、おそらく檀家さんの数は減っていくでしょう。お寺自体の存続が難しく、実際にたたまれたり、兼務が増えたりしている地域もあり、

同じ宗派のお寺が協力してやっていかなければならない時代がすぐそこに来ています。今年、浄土宗は開宗 850 年を迎えました。これを機に、宗派全体で浄土宗やお念仏を身近に感じていただくための様々な企画を行っています。

その一つとして、普段は対応できる人員の確保が難しいなどの理由から一般公開していない寺院を一部開放し、敷居が高い、入りづらいと思っている方にも気軽に足を運んでいただく「てらギャラ」という取り組みがあります。ひとつのお寺だけで対応するのは難しいため、公開時間や人手の確保、来訪客の対応などを地域のお寺で協力し、特別公開する寺院を 6ヶ所に絞りました。そして、各お寺で時間を決めて法要を行い、6つのお寺を巡り浄土宗の六時礼讃*という法会を体験してもらうことを企画しました。普段、一日、二日で六法要をする事はありませんので、これは来ていただく方への付加価値になる、加えて六法要のチケットには 6ヶ所回ると御朱印が完成するような仕掛けも作りました。地域のお寺で協力し、仏教に興味を持っていただくきっかけを作りたくて、少し遊び心を加えた『てらギャラ de 六時礼讃』を開催する予定です。11月9日(土)、10日(日)の二日間で実施しますので、亡き人の供養とされるもよし、音楽として礼讃を楽しむもよし、気軽に足を運んでいただければ嬉しく思います。

*六時礼讃…浄土教における法要、念仏三昧行のひとつ。1日を①日没、②初夜、③昼夜、④後夜、⑤晨朝、⑥日中の6つに分け念仏・礼拝を行う

てらギャラ de 六時礼讃

Presented by 浄土宗奈良教区第一組

浄土宗開宗850年を記念して、画期的なイベントが開催されます。その名も「てらギャラ de 六時礼讃」。普段は開放されていない奈良市内6カ所の寺院で法要を行い、その中で六時礼讃を順に披露。各法要でチケットに印を押し、完成すると御朱印となります。またその模様はYoutubeで生中継。オンラインにて別回も受け付けます。音楽として礼讃を楽しむもよし、ご自身やごきんの供養とされるもよし。850年連続浄土宗の神髄ともいえる法要を、是非ご覧ください。

速報!
Youtubeナビゲーターに
みほとけさん
就任決定

チケット情報
六法要通しチケット3,000円/枚(先着50枚)
2024年9月26日公式HPにて発売開始

お問い合わせ
浄土宗奈良教区第一組 組長 静永孝幸(普光院住職)
電話 0742-22-3560
メール shizunagatakaaki@gmail.com

初日 (11/9)	二日 (11/10)
10:00~ 普光院 (中夜礼讃)	10:00~ 興善寺 (後夜礼讃)
13:00~ 淨國院 (晨朝礼讃)	13:00~ 金鉢寺 (日中礼讃)
16:00~ 淨福寺 (初夜礼讃)	16:00~ 朱邊寺 (日没礼讃)

▶想像力や考える力を養ってほしい。寺子屋を通じて地域寺院のあり方を表現したい。

— 『ならまち寺子屋学房』を開かれたのには何かきっかけがあったのでしょうか。

お寺の手伝いをしていた時に、友人から、英会話教室を手伝ってほしいと頼まれ、引き受けました。子どもたちの英語の成績が伸び、英語以外の教科も教えてほしいと、信頼を得るようになった頃、自分は教えることが好きだという事に気づき、自分が住職を継ぐ時にはお寺と子供たちに教えることを並行してできればいいなと考えていました。また、浄土宗教師資格を取った時の仲間たちと、寺院が地域に果たすべき役割や教えを伝えていくことの大切さを語り合ううちに「なぜ寺には高齢者しか来ないのか。葬儀や法事ばかりでいいのか。本来、お寺は人生のヒントや生きる糧を得られる場ではないのか」と考えるようになり、2015年4月に『ならまち寺子屋学房』を立ち上げました。子どもたちを教えていて感じたことは、知りたい情報がすぐに手に入り、何事においても進むスピードが速い時代となり、目に見えるものだけが全てで、それ以外のところに想像力を働かせる事が忘れ去られているのではないかということです。ですから、寺子屋では正解を覚えるのではなく、「なぜ自分の答えが間違っているのか」という理由を自分で追及してもらうことを大事にしています。間違った理由に納得できた時に得られる喜びがまた次の課題に向かう力になると考え「自学自習・考える事を学ぶ」をコンセプトに学習指導を行っています。



阿弥陀寺とその隣にある寺子屋学房

仏教って目に見えないものなので、皆さんに伝えていこう、興味を持ってもらおうと思うと、こうした想像力を発揮してもらうことが大事なんです。今、仏教はかなりの勢いで衰退していて正直危機感もあります。寺子屋に子供たちが来てくれることで、その親御さんもお寺に足を運ぶきっかけになりますし、今の時代に想像力や考える力を養ってもらえる場所が「お寺」となれば、お寺の敷居が少し低くなり、本来の寺院のあり方に近づけるのではないかと考えています。

▶お坊さんは生涯現役。これからも熱意を持ち続けてカッコイイお坊さんを目指します。

— 今後の夢を教えてください。

今回の「H1 法話グランプリ」は2025年の開催を目指して準備を進めており、より多くの方に発信し、法話を通じて色々な宗派の事や仏教の事を知っていただける機会にしたいと考えています。今、仏教界も変化の時を迎えていると感じますので、時代の変化に合わせて、古き良き伝統を次の世代に繋いでいきたいと思っています。

阿弥陀寺としては、境内に「悲田院[※]」があるというのも何かのご縁だと思いますので、宗教的な側面から子供たちをサポートする象徴的な場として、今の寺子屋をお寺の事業の核となるように拡大していきたいと考えています。



阿弥陀寺境内の様子



境内にある悲田院

※悲田院…仏典の慈悲の思想に基づき、寺院などに付属して、孤児や病者・貧窮者を収容・救済した施設



私個人としては、住職はいつか引退する日が来ますが、お坊さんとしては生涯現役ですので、いくつになっても「カッコイイお坊さんだな」と言われる存在でありたいですね。

— 若いビジネスパーソンへメッセージをお願いします。

私から見ると、ビジネスの世界におられる方は、目まぐるしい変化の中で新たなものを生み出したり、理不尽な事に対処されたりと、日々戦場に立っておられるようで尊敬しています。ですからメッセージなどおこがましいというのが正直なところですが、宗教が普段生活している社会と別世界の物だと捉えず、もっと身近に感じていただきたいと思っています。仏教は目に見えない「心」を見つめる営みですので、法話には目に見えないものへの向き合い方のヒントが隠されています。ぜひ法話グランプリを聴いていただき、自分の心の声に耳を傾け、忙しい日々の中で、一つでも多くの幸せを感じていただく事に繋がれば嬉しく思います。

それと「熱意は伝わる」という事はお伝えしたいです。自身の経験からも一度言っただけでは伝わらない事でも、熱意を持ち続けていれば、必ずチャンスはやって来ます。あきらめずに熱意を持ち続けていれば、将来あなたの熱意が伝わる日がきっと来ることでしょう。

(聞き手・文責：清原香織)

●プロフィール 森 圭 介 師

■主な経歴

清風高等学校卒業後、関西学院大学文学部日本史学科に進学、卒業

佛教大学通信教育課程で中学校・高等学校英語教員免許を取得

阿弥陀寺副住職を経て、現在住職を務める

2021年 H1 法話グランプリ 副実行委員

2023年 同 上 実行委員長

■座右の銘、好きな言葉

志（こころざし）

■大事にしていること

素直であること

難易ではなく、面白いかどうかで判断する

■私のモットー

感性と理論の融合

■趣味

音楽、サッカー

■お勧めの本

街場の成熟論（内田樹）

■私のストレス発散法

歌を歌う、好きなものを食べる

■奈良県内で好きな場所（よく訪問される場所）

浮御堂

■お寺の概要

浄土宗 安養山 阿弥陀寺

所 在：奈良市南風呂町 10

創 設：1621 年

御本尊：阿弥陀如来像

仏像・美術品：絹本著色観経十六観相図

五劫思惟阿弥陀仏 など